

スポーツのまちやはば宣言セレモニー・矢巾町スポーツシンポジウム

日 時：平成 31 年 1 月 19 日（土）午前 10 時

場 所：矢巾町文化会館「田園ホール」

#### ○開会行事

##### ・司会者自己紹介

司会：改めまして、本日は、「スポーツのまち やはば」宣言セレモニーへご来場いただきまして、ありがとうございます。

本日の司会を務めさせていただきます、伊藤広子と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます

##### ・演武

司会：開会に先立ち、矢巾町空手道協会による空手道演武、長谷川まゆみ様による居合道演武をご覧ください。

はじめに矢巾町空手道協会の皆様による「平安初段」及び「ニーパイポ」の形の演武、続きまして長谷川まゆみ様による「古流夢想神伝流」から 3 本及び「全日本剣道連盟制定居合」から 4 本です。よろしくお願ひします。

矢巾町空手道協会の皆様、長谷川まゆみ様ありがとうございました。

##### ・開会のことば

司会：開会のことばを矢巾町副町長水本良則が申し上げます。

副町長：本日はお忙しい中、また、今の時期にしては暖かいですがお寒い中、ご来場いただき誠にありがとうございます。只今から、誰もが、どこでも、いつまでもスポーツに親しむまちを目指し、スポーツのまち宣言、そしてスポーツへの理解を深めるため、スポーツシンポジウムを開催いたします。

##### ・主催者あいさつ

司会：続きまして、主催者であります、矢巾町長高橋昌造がご挨拶を申し上げます。

町長：皆さんおはようございます。本日は「スポーツのまち やはば」宣言にお立会いをいただき、誠にありがとうございます。矢巾町では、平成 28 年 11 月に「音楽のまち やはば」宣言を行い、「音楽を愛する心」を町の宝とし、人づくり、まちづくりを進めてまいりました。そして今、矢巾町は『希望と誇りと活力にあふれ躍動するまち やはば』の基本理念の元、更なる飛躍を目指しております。そして、本町では、スマートインターチェンジが開通したことにより、県民医療の中核を担う岩手医科大学附属病院の開院をこの秋に控え、町民の皆さんの健康に対する意識にも高まりが見られます。人生百年時代を迎え未来に向かって輝き続ける矢巾町を作り上げるためには、皆さんお一人お一人の心と身体が健康でなければなりません。その一助となるのが他ならぬ「スポーツ」であると考えています。スポーツをすることで笑顔になり、人と人との心地よい交流が生まれ、毎日の生活の活力につながるわけであります。そのよ

うな「スポーツを愛する心」も矢巾町の宝です。本日矢巾町では、「スポーツのまち やはば」宣言をいたします。皆さんとともに、誰もが「いつでも どこでも いつまでも」スポーツができる健康で幸福な人生を送るまちを目指して参ります。そして、「スポーツを愛する心」を町民の皆さんと分かち合い、ともに「スポーツのまち やはば」を力強く育てていきます。本日は、スポーツのまちやはば宣言セレモニーにお越しをいただきまして、誠にありがとうございました

#### ○スポーツのまちやはば宣言

司会：矢巾町民を代表して、矢巾町長 高橋昌造及び町内スポーツ少年団が宣言をいたします。

司会：スポーツのまちやはば宣言

みんなの夢、元気あふれる健康なまちやはばを目指して

高橋町長及びスポーツ少年団：

ラジオ体操の小気味良いリズムが流れる中

一日が始まるまち

通学路を 元気に歩く子どもたち

公民館ではシルバーリハビリ体操を 教える人 そして習う人

運動場や体育館では それぞれの競技に汗を流す 声援が聞こえる

運動からスポーツへと

それぞれのステージで頑張る人々がいるまち やはば

誰もが スポーツを「する みる ささえる」という様々な形で参加し

感動と喜びを分かち合い

「いつでも どこでも いつまでも」スポーツができる

健康で幸福な人生をおくることを目指し

わたくしたちは 本日ここに

“スポーツのまち やはば”を宣言します

平成 31 年 1 月 19 日 岩手県紫波郡矢巾町

司会：ただ今の宣言をもって、矢巾町は“スポーツのまち”として誕生いたしました！

皆様、盛大な拍手でお祝いくださるようお願いいたします。

#### ○第 1 部 基調講演

富士大学硬式野球部監督、豊田圭史氏による基調講演を開催。

司会：ここで、10 分間の休憩といたします。

再開を 11 時 20 分とさせていただきます。

・メッセージ紹介

司会：ここで、矢巾北中学校卒業生の菊地裕太様から、メッセージを頂戴しておりますので、ご紹介いたします。

(以下、メッセージ)

「夢は世界一のテニスプレーヤーです。」そう言って旅立った中学の卒業式が昨日のこのように感じます。

現在はカリフォルニア大学バークレー校でその夢に向かって日々努力を重ねています。

スポーツには人間力を高める要素がたくさん詰まっています。自分の力不足を認め、相手の強さを認め、そこから勝とうとする気持ち、チームを思って行動する気持ち、たくさんのごことを学びました。

世界一と言われる、僕の大好きなフェデラー選手はこう言っています。

「The details makes the difference in the end.」

ほんの小さな事が結果に違いをもたらす。毎日の基礎練習の積み重ねや小さなチャレンジがどれほど大切か、今まで自分がやってきた試合やテニスの人生のなかで何回も教えられてきました。こういった経験はテニスだけでなく生活の中でも必ず役に立つことだと思います。

僕は矢巾町の「スポーツのまち宣言」を広報で知りました。僕にも何かできることがあれば協力したいと思います。そして、矢巾町民の健康やスポーツへの活動が更に発展して欲しいと思います。

平成 31 年 1 月 19 日 菊地裕太

○第 2 部 パネルディスカッション

皆様、お待たせいたしました。

これより第 2 部として、矢巾町にゆかりのあるスポーツ関係者の皆様により、「スポーツが担う役割」と題して、パネルディスカッションを行います。

ここで、本日のコーディネーター及びパネリストの皆様のご紹介をさせていただきます。

始めに、コーディネーターです。岩手県中体連事務局を長年務められ、今世界で活躍している小林陵侷選手を輩出したスーパーキッズ事業の立ち上げに携わりました、現在矢巾北中学校の校長であります、西郷晃様です。

続いて、パネリストです。矢巾町体育協会の理事等を歴任し現在会長職をされております。長年卓球の指導に尽力され、矢巾町の卓球の先駆者といっても過言ではありません。矢巾町在住の村松正夫様です。

続いてのパネリストは、楽々クラブ矢巾会長、長年ハンドボールの指導に尽力されています。昨年、文部科学省生涯スポーツ功労賞を受賞し、記憶に新しいかと思えます。工藤眞理子様です。

続いては、東京 2020 オリンピック・パラリンピック推進事業で全国をまわりスポーツ教室や講演活動を積極的に行っております。自らもパラリンピックに出場した経験をお持ちの横澤高德様です。

続いては、煙山小学校から高校卒業まで町内に在住しておりました。テニス競技において、

高校時代全ての東北大会で全種目優勝、その他数々の実績をお持ちになっております。現在は東京都足立区にて区議会議員を務められております、長澤興祐様です。

そして最後になりましたが、矢巾北中学校、不来方高等学校を卒業してありまして、平成30年度国体ハンドボール競技出場、スーパーキッズ第4期生で現在国士舘大学在学中、ハンドボールで大活躍の射守矢成美様です。

それでは、ここからの進行はコーディネーターの西郷様にお願いいたします。

西郷：改めまして会場の皆様こんにちは。朝に町長さんとスポ少の子どもたちみんなで、「スポーツのまち やはば」宣言をしていただきました。町民一人ひとりがスポーツを身近に感じられる機会を日常的に作ろうと、そして、スポーツで矢巾町を元気にしようというイベントです。

本日のお題は、スポーツが担う役割となっています。会場の皆さんは、様々な形でスポーツに携わっておられる方々だと思います。本日は、様々なご経歴、ご経験豊富なパネリストの皆さんにお集まりいただきました。この後パネリストの皆さんには、ご自分の考えていることをごつくばらんに、あまり気取らずにお話をしていただきたいと思いますが、本日は会場の皆さんも、もし自分が質問をされたなら自分だったらこのように答えるな。とか一緒に考えながらお話を聞いていただきたいと思います。

では最初にパネリストの皆さんに、自己紹介を兼ねまして、自身の経験とか日常の生活を通してスポーツについて考えていることのお話を伺いたいと思います。村松会長からお願いします。

村松：本日、矢巾町がスポーツのまちを宣言したということは、我々スポーツを親しむ者にとっては、大変嬉しく思っていますし、これからの活動の励みにもなります。

さて、私は兄が卓球をしており、小学校2年生の時から親しんでいました。学校には早く登校しなければ卓球台が使えなかったため、その生活をずっと続けていたことから卓球を楽しむようになりました。その後もずっと卓球を続けていたことから、たくさんの卓球仲間ができました。体育協会の会長となった今は、スポーツによる町民力を高めるために頑張っていきたいと思っています。

西郷：それでは続きまして、楽々クラブ矢巾の工藤会長、お願いします。

工藤：人々の生活が豊かになる一方、運動不足になりがちで、体力及び運動能力の低下が問題となっています。少子高齢化による老人医療費の問題など深刻な問題を多く抱えています。競技スポーツより軽い生涯スポーツは、いつでも、誰でも、気軽に参加でき、その需要が年々高まってきています。生涯スポーツは健康の保持・増進の目的だけでなく、ライフスタイル、年齢、体力、運動機能や趣味に応じた、生きがいに結びつくスポーツです。高齢者は、老後をいかに豊かに過ごしていくかが重要となってきますが、この点からも大きな役割を果たすと思っています。また、核家族化等による、地域のコミュニケーションが希薄になってきていますが、スポーツは人と人と繋ぐ架け橋としても重要な役割も果たしています。総合型スポーツクラブは、生涯スポーツの普及の場として子どもから高齢者まで、様々な種目をその人のレベルに合わせてスポーツを楽しめる、コミュニティとして、地域住民に自主的に主体的に運営されるス

ポーツクラブです。

生涯スポーツを取り組むことで一番のメリットは笑顔です。笑顔は生きる希望を与えてくれる素晴らしい力を持っています。その笑顔を守り抜くためにも生涯スポーツを大切にしていきたいと思います。

西郷：お二人からお話を伺いましたが、ここで、会場の皆さんにお聞きします。

村松会長から卓球を教わりましたという方は挙手してください。結構いますね。おや、スタッフにも。

次に、楽々クラブを利用されている方は挙手してください。たくさんいますね。ありがとうございます。これは素晴らしいことですね。

それでは、続きまして、2010年バンクーバーパラリンピックの日本代表である横澤さんをお願いします。

横澤：私も子どもの頃から村松会長に卓球を教わっていました。25歳の時にオートバイレーサーとして全日本選手権をまわっていた時に、突然の事故で車椅子の生活となりました。その時は人生のどん底に落とされたような気持ちで、夢も希望も目標も見失い、生きる力が湧いてこなかったんです。そんな時、病院のベッドの上で長野オリンピックで活躍する選手の姿を目にし、その後チェアスキーと出会い、新しく夢と目標を見つけた時から少しずつですが生きる力が湧いてきました。スポーツから新しく夢や目標をいただいて、そこから生きていく力をもらったという思いがあります。

西郷：続きまして、東京都足立区の区議会議員をされている、長澤さんをお願いします。

長澤：小さい頃からいろんなスポーツをやってきました。中学校でサッカー部に入るため、受験をして学校に入ったんですけども、サッカー部員が2人しかなくて、テニス部にトレードされてしまいました。中2から始めたテニスで、縁もあって良い指導者に巡り会い、中3の時には全中に出ることもできました。高校ではインターハイ、全日本ジュニア、すべての大会に出場し、大学ではスポーツ推薦で進学し、日大テニス部の副主将として全国大会の準優勝を経験することができました。岩手県を始め、まちの皆様にお世話になって、そういった経験をさせていただいたと感じております。だからこそ私ができることをしっかりと皆様にお返しをさせていただきたい。東京で矢巾町から離れてはいますが、スポーツのまち宣言された皆様に外から熱い支援をしたいと考えています。

そして、私は現在、足立区トランポリン協会の会長を務めています。オリンピック競技で、日本の中でも金沢市と足立区は断トツにレベルが高い地域です。足立区のトランポリン協会には、ナショナルチームのSランクの競技選手が3人います。この3人をしっかりと支援し、東京オリンピック、そしてパリオリンピックに出場させることも会長として力を入れているところです。それと併せて、普及活動。幼児期にトランポリンに触れてもらって、また、成人された方でも簡単に始められるスポーツです。老若男女の皆さんがスポーツを楽しめる環境を整えていくことも私の務めだと思っております。

いよいよ来年は、東京オリンピックが開催されます。今日皆様に、数に限りがありますが、東

京オリンピック・パラリンピックの機運醸成のバッジをお持ちさせていただきましたので、帰りに皆様一つずつお渡しさせていただければと思います。岩手ではありますが、日本で開催されるオリンピックを是非一緒に体感してください。スポーツのまちやはばの皆さんが盛り上がっていただかないと東京オリンピック・パラリンピックの成功はないと私は考えていますので、ぜひご協力をお願いします。

西郷：それでは、このパネリストの中で、今も国内のトッププレーヤーで現役でハンドボールをやっております、射守矢さんからお願いします。

射守矢：中学校・高校でハンドボールをやってきました。現在も続けています。きっかけは小学校6年生の時に矢巾東小学校の授業でハンドボール体験が行われ、その際にトップアスリーの宮崎大輔選手をはじめとする大崎電気の方々がいらして教えていただいたことと、中学校のハンドボールの先生から声をかけていただいたことからハンドボールを始めました。一番の思い出は、高校3年生の時に開催された岩手国体の試合です。負けてしまいましたがたくさんの応援の中で、自分たちのハンドボールができたことは忘れられないです。昨年開催された福井国体青年の部で岩手代表として選出していただき、岩手の先輩方と戦術をたててパフォーマンスすることに責任もありましたが、やりがいもとても感じました。スポーツをやってきて、どんな状況でも焦らず的確に判断することができるようになったことはとてもプラスになったと感じています。また、忍耐力や精神力も身につきました。さらに、今相手が何をしたいのか、自分が相手にどうして欲しいのかを短時間でどれだけ伝えることができるのか、瞬時の判断がチームプレイでは求められ、コミュニケーションがとても重要になります。先輩や同級生、後輩の立場を超えて協力し合い、お互いをカバーしてともに目標に向かって取り組むことがスポーツの最大の魅力だと感じています。

西郷：スポーツを指導される上で、自分が選手を指導する、スポーツを取り組ませる時に心がけていることをお聞きします。

村松：スポーツマンシップとは勝負にこだわるものではない。礼儀を守らないスポーツマンはスポーツマンシップを持っている人ではない。だから、挨拶をする、礼儀正しく、相手を思いやりながら、そして全力を出して戦う姿を心がけています。

西郷：村松会長がそういう指導をしていただいて、子どもたちが変わってきたなと感じた瞬間はありますか。

村松：子どもたちが私の顔を見て寄ってきて挨拶をする、これは指導者冥利に尽きます。

西郷：今のお話から、子どもたちから愛される指導をされているんだと感じました。工藤さんはいかがでしょう。

工藤：まずルールを守るということ。成績だけではなく、皆さんに応援していただける選手になること。自分がこの世で自分の好きなスポーツができるということに感謝すること。その感謝の気持ちをどれだけ周りの人に表現できるかということに気を付けています。

西郷：横澤さんからはこの間、全国のスキー仲間の方が安比高原にもいらっしゃるとのお話を聞きましたけれども、そのような方々に指導したりしているのでしょうか。

横澤：全国からパラリンピック選手が合宿にいらっしゃるんですが、特に指導というよりは、みんなで刺激し合いながら高め合う感じですね。みんな目標を高く持っています。必ず初心を忘れません。なんでスポーツを始めたか、そして自分はどうなりたかったのかというのを、個人競技なんですけど、みんなで共有しながら高め合っています。

西郷：本町には、パラリンピストの高橋幸平君もおりますが、幸平くんには何かアドバイスしたことはありますか。

横澤：彼は非常に素直な子です。初出場なんだから、とにかく思いっきり失敗を恐れずに、とにかく挑戦して来いということだけは言いました。彼の場合は、次もありますし、次の次もありと思って、とにかく経験値を上げるようにということでは言いました。

西郷：すごく勇気を持ってやっているアドバイスだと思います。

続いて、長澤さんは実はオーストラリアでテニスのコーチをされていた経験もありますので、海外で選手を指導する時に心がけていたことが何かあれば。向こうと日本の違いみたいなのは何かあるのでしょうか。

長澤：まさに、海外と日本を常に比較して指導してまいりました。まずは、マナーはもちろんのこと、ルールは絶対に守らなければいけない。そこは世界共通です。ただし、日本の指導の仕方が、20年前そして現代とではかなり変わっているとはいえ、まだ、型にはめた指導の仕方が強いと感じてきました。海外のジュニアや選手と練習をしたり、指導した際にはやはり自由な発想、そしてコツ、やはり枠にはめられた指導の中からはコツはなかなか生まれない。いろんな自由な発想の中から自分に合ったものをいろいろやってみて、その中で良いものをピックアップさせていく。これが新しい指導者の必要なポイントだと思います。それと自主性だと思っています。中学高校の時、指導者から枠を決めていただいて活動することは楽だったです。ただし、卒業してその枠が終わってしまうと、自発的に活動すること、選手として結果を残すことが厳しいと思うんです、やはり、ジュニアの段階から、なぜやるのか、どうやったら今の段階を一步上に行けるのか、これを考えさせること。ここが一番大切だと思って指導してきました。

西郷：では、射守矢さんは指導される側から、ハンドボールの活動を通して学んだことは何かありますか。

射守矢：指導者と生徒がしっかりコミュニケーションが取れていないと、何をしたいのかという食い違いが出てきてしまって、うまくチームを作っていくことができないので、しっかりとお互いに何をしたいのかを話し合っ、チームづくりや練習をしていくことが大切なんだと感じています。

西郷：少し話が指導者論になりかけているようですけれども、指導の場面でいろんなことを心がけている、スポーツを通して、子どもたちにこんなふうになってほしいという思いというか、そういう役割っていっぱいあるんじゃないかなと思うんですが、せっかくうちの生徒が来ているので、普段部活で指導してもらって学んだことや、ここはもっと頑張りたいと思うことを30秒以内で聞いてみます。

矢巾北中生徒：いつも指導されている方が、「プレイは生活から」といったことをよく言われるので、そこを意識してやっているけど、まだ不十分なので、そこをもう少しがんばりたいです。

西郷：生活が大事だと先生から教わっているようです。スポーツの指導を通して子どもたちにスポーツの素晴らしさを教えるとともに、ベースの部分をみんなで教えることが大事かなという話を聞きました。

もうひとつ、総合型地域スポーツクラブに代表されるように、ずっとスポーツをやり続けることが大事ではないかと思うんです。それが健康づくりにつながっていくんじゃないかと思えます。それについて、長澤さんの足立区は総合型地域スポーツクラブの数がすごく多いんだそうですが、健康に対するスポーツの役割をどのように考えていますか。

長澤：私の住んでいる足立区は東京23区の中でも、高齢化率が2位、24パーセントです。4人に1人が高齢者ということになります。今、財政についてはかなり高齢者に対する医療・福祉の方が膨らんでいる中で、そこを解消するためには、町の皆さんに健康でいただくことが一番大切だと。きっとこれは矢巾町も全く同じ考えだと思います。そこをどうやってまちの皆さんに健康になっていただくのかと考えた時に、まずは運動をしていただくことが一番大切ではないかということで始めたのが、地域型総合スポーツクラブです。区内には9箇所あります。先ほど、工藤さんからお話を伺ったところ、矢巾町は1つということでした。矢巾町と足立区を比較すると、だいたい人口が矢巾町が27,300人、足立区は689,000人です。25倍の人口がいます。この中で、実は東京の方は地域型総合スポーツが足りていないというのが現状です。それは、東京は場所がないんです。グラウンドがなければ体育館もない。運動する場所が本当がないんです。だから運動不足になっていく。そして、忙しいから、そして、高齢者が高齢者のスポーツ、子どもが子どものスポーツと別れてしまっているから、なかなかスポーツが浸透しない。そこを一体化させて、地域のコミュニケーションをしっかりと整える。そして、健康を整える。このために地域型総合スポーツに力を入れてやっています。健康だけじゃなくて、老若男女の縦のコミュニケーション、そしてスポーツを一緒にやることによって、友達、チームメイトのコミュニケーションを取ることによって、各世代の声をしっかりと反映していくし、

小さい子どもたちには上の年齢の人との接点によって人材育成をしていく。これは本当にこれから力を入れてやっていかなければならない。特に工藤先生には、今実際矢巾町ではどんな課題があるのか、ぜひお聞きしたいと思います。

西郷：ご指名がありましたので、工藤さんに矢巾町の現状を具体的に紹介していただけてよかったですか。

工藤：会員は60歳以上の方がほとんどで、働き盛りの中間層の方の加入率は少ないです。つまり、働いている方に関しては、生涯スポーツをする方が少ないのではないかと思います。矢巾町には体育館が一つしかありませんので、働いている方がやりたい時間帯は場所の取り合いになってしまうので、なかなかできないということが一つあるのではないかと思います。

西郷：そうですね、限られた資源を有効に活用するといったところがすごく大事なかなと思います。ところで、今日は町長もいらっしゃるので、夢を語っても良いかなと思います。さて、村松会長はいかがでしょう。健康に関するスポーツの役割についてご意見をお願いします。

村松：スポーツは脳の活性化が非常に良くなる。そして、体も動かしますし、新陳代謝も上がり血流も良くなって、認知症にもならないという効果もあるそうです。このため、高齢者の方には特に運動していただきたいと思っています。今、コーディネーターから要望してくださいと言われましたので、先日新聞記事に掲載された全天候型ドームをできる限り早く実行に移して欲しいと思っています。

西郷：みんなの力で健康を増進できるような施設があればいいなとも思いますので、実現できれば良いと思います。ちなみに射守矢さんは、大学でも健康に関する勉強をされているようですので、少し紹介してもらってもよろしいですか。

射守矢：競技スポーツはもちろんですが、これからは子どもの数が減ってきて、高齢者の数が増えていくのがデータでも出されているので、同じように生涯スポーツを考えていくことも必要です。

楽々クラブなどでも、お年寄りが集まってコミュニケーションをとれる場となるように、もっと参加していただいて、お互いに健康づくりやコミュニケーションをとっていただければいいなと思います。

西郷：先ほど、体育館が一つしかないということでしたが、実はほかにも施設はたくさんあるのですが、なかなかみんなが有効に使えるように機能していないということもあるのではないかなと思います。私もスーパーキッズの教室をやる時に、産業短期大学校さんの体育館を借りたかったのに断られたとか、岩手医大にも体育館があるので借りたかったなどの経験があって、地域のみんなと協力していただければ、色々な場所でもっと使えたりするのではないかなという点を、社会教育課の野中課長さんに工夫してもらえないかなと思っております。さて、もう

一つ別なテーマですが、先ほど村松会長さんから、スポーツの町民力という話がありましたので、この点について少し具体的に思いを語っていただければ幸いです。

村松：今、競技選手は低年齢化が進んでいて、小学生、中学生で世界チャンピオンになる時代です。反面指導者が大変だと思いますが、本人の努力も大変なものがあると思います。そういった人たちが育つ土壌を持って行けたら良いなと思っています。今パラリンピアンが2人育ちました。あとはオリンピックです。先ほどの菊地選手や、個人的には水本圭治選手のように、ぜひ選手を輩出して、矢巾町の力というか、土壌を高めていけたら良いと考えています。そのようなスポーツのまち、競技だけではなく、すべての面でそういったことをやっていけたら良いと思っていますところでは。

西郷：今はトップ選手の話になりましたが、スポーツは健常者も、障がいを持った方も、高齢者も、子どもも、みんな一緒にできるといった素晴らしさがあるのではないかと思います、この点について横澤さんにお話をさせていただければと思います。

横澤：スポーツの良い所は、誰でも一緒に楽しめるスポーツがいっぱいあると思うので、矢巾町からそういう、共に生きるという意味では、スポーツを通していろんな人と関わりながら、みんなと楽しく盛り上がっていければいいなという思いはあります。

西郷：実は、日本全国からチェアスキーのトップ選手が安比にはよく来ているということですので、横澤さんには彼らを矢巾町に連れてきてもらって、日本のパラリンピックのトップ選手の話やぜひ子どもたちに聞かせたいという話をしていましたので、ぜひ機会を実現して欲しいと思います。さて、それでは最後にスポーツの役割に絡めて、射守矢さんから順番に一言ずついただきたいと思います。

射守矢：スポーツをする上で、色々な考え方がありますが、勝つことだけにこだわるのではなく、取り組んでいる競技が好きであること、初心を忘れないこと、そして楽しむことが大切だと思います。また、地域と連携協力し合い、大学生や高校生が子どもたちに自分が取り組んでいるスポーツを教える場や環境を整えていくことも必要だと考えています。

長澤：勝つことがすべてではありません。ただし、スポーツをしている以上、勝負がありますから、勝ちを目指して、勝ちを追求していかなくては極めることはできないと思います。その競技をしっかりと追求することによって、強い人格形成ができると思いますし、挨拶そしてコミュニケーション能力、こういったものを育てていくのがスポーツの醍醐味です。スポーツのまちやば宣言をされたので、スポーツが強だけでなく、スポーツを使った人材育成に力を入れていただければ、なおかつオリンピック、パラリンピックの選手を出していただきたい。町の皆さん全員で応援していくことによって、スポーツを通じて一丸となって盛り上がっていくと思います。矢巾町のこれからの更なる発展を楽しみにしていますし、全力でサポートさせていただきたいと思っています。

横澤：若い人たちには、スポーツを通して夢や目標に向かって挑戦する中から、人として成長していただきたいと思いますし、大人はスポーツをきっかけに生きがい、生きていく力を心の中に持ちながら、何歳になってもスポーツをやりながら笑顔が増える矢巾町になったら良いなと思います。

工藤：私は、町民の皆さんが、スポーツは大好きですと言っていただけるようなスポーツを進めていきたいと思います。また、高齢者の方には、いつまでも元気でスポーツをやっていただくような環境づくりに励んでいきたいと思います。

村松：スポーツに関する課題とか相談があれば、体育館に矢巾町体育協会の事務局がありますので、自分のやりたいスポーツをみんなで楽しめるような取り計らいをしたいと思いますので、ぜひご利用していただきたいと思います。

西郷：学校は、『智・徳・体』のバランスを取れるような人を指導しなさい」と言われます。知識のない方は、体育ってというのは体を動かすことかと言われます。それは間違っていて、スポーツは智も徳もないとできないのです。体育の授業というのは、仲間を思いやる心とか、ルールを勉強したりとか、チームで作戦を練ったりとかを考えていないとできない教科なんです。スポーツも同じだと思います。スポーツを通して智・徳・体のバランスが取れた人間を育てていきたいとずっと思って選手指導をしてきました。みんなが一生涯に渡ってスポーツを楽しんでいく、誰でもスポーツが好きだといった環境を作っていきたいものだと思っています。

矢巾町は、「音楽のまち やはば」宣言に続いて、本日「スポーツのまち やはば」宣言も行いました。音楽やスポーツを身近に感じられる機会をたくさん作りながら、音楽で町を元気しよう、スポーツでさらに町を元気にしよう。という熱い想いや願いが込められた宣言です。

今日のスポーツシンポジウムでは、気合の入った演舞、そして子どもたちと町長による「スポーツのまち やはば」宣言、富士大学の豊田監督さんによる基調講演、そしてパネルディスカッションと、会場の皆さんと一緒にスポーツの素晴らしさを考えながら、今日からさらに「スポーツに親しむ、スポーツで鍛える、スポーツで元気になる」ことを学ぶ時間となりました。

町民一人ひとりが主役となって、様々な形でスポーツに関わりながら、元気な町・矢巾町を作っていくことを誓い合いながら、本日のパネルディスカッションを終了とさせていただきます。みんなで元気なまち矢巾町を作っていきましょう。

#### ○閉会行事

司会：閉会のことばを矢巾町教育長、和田修が申し上げます。

教育長：本日矢巾町は、「スポーツのまち やはば」宣言をさせていただきました。みんなの夢、元気あふれる健康なまち やはばを目指して。それぞれの立場で、それぞれの役割を担いながらがんばって参りたいと思います。

以上をもちまして「スポーツのまち やはば」宣言セレモニー並びにシンポジウムの一切を終了いたします。本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございました。

司会：以上をもちまして「スポーツのまち やはば」宣言セレモニーの一切を終了させていただきます。皆様のご協力ありがとうございました。